

平成29年度第5回江別市廃棄物減量等推進審議会議事録

日 時	平成30年2月7日（水）14時00分～15時00分
場 所	江別市民会館 3階 研修室37号
出席委員	押谷会長、内海副会長、浅川雅己委員、五十嵐委員、神保委員、和田委員、中井委員、八戸委員、林倉委員、樋口委員、星委員、三輪委員（12名）
欠席委員	津嶋委員（1名）
事務局	高橋生活環境部長、湯藤生活環境部次長、田中環境室長、阿部廃棄物対策課長、中町施設管理課長、松崎施設管理課主幹、和田庶務係長、佐藤指導係長、中村減量推進係長、五十川減量推進係主査（資源化担当）、金谷減量推進係主事（11名）
傍聴者	2名
会議次第	1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事（議題） （1）報告事項 ①「環境クリーンセンターの方向性」パブリックコメント実施結果について ②平成30年度清掃関係予算（案）の概要について 4. その他 5. 閉会
配布資料	・資料1 環境クリーンセンターの今後の方向性（案）についてのパブリックコメント結果 ・資料2 平成30年度清掃関係予算（案）一覧

▼会議内容

【開会】

○廃棄物対策課長

本日は全委員13人中、12人の委員のご出席をいただいておりますことから、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。

次に、議事に入る前に、廃棄物減量等推進審議会の公開につきましてご説明いたします。

市では、江別市情報公開条例第18条の規定により、市民の市政への参画を促進するとともに、公正で透明な市政を推進するために、審議会等は支障のない限り公開を原則としており、この審議会でも傍聴者を認めております。

また、会議の議事概要として、発言内容を発言者の氏名とともに市のホームページ等で公開いたしますので、ご了承いただきたいと思います。

本日は、2人の傍聴希望者が待機しております。入場いただいて、これ以降の議事を傍聴いただこうと考えておりますが、よろしいでしょうか。

（各委員了承）

○廃棄物対策課長

それでは、傍聴者の方に入室していただきます。

（傍聴者入室）

○廃棄物対策課長

それでは、ただいまより、「平成29年度第5回江別市廃棄物減量等推進審議会」を開会いたします。

はじめに、押谷会長よりご挨拶をいただき、以降、会長に議事の進行を、お願いいたします。

【議事】

○押谷会長

皆様、改めましてこんにちは。大分、寒くなってまいりましたけれども、これで5回目の審議会となります。いよいよ、今年度最後ということになりますので、ご協力のほど、よろしく願っています。

それでは、審議に入りますが、本日の議題は報告事項2点ということになっております。

1点目が、「環境クリーンセンターの方向性パブリックコメント実施結果について」、2点目が「平成30年度清掃関係予算（案）の概要について」ということでございます。

「環境クリーンセンターの今後の方向性（案）についてのパブリックコメント結果」、事務局よりお願いいたします。

(1) 報告事項

①「環境クリーンセンターの方向性」パブリックコメント実施結果について

○施設管理課長

施設管理課の中町です。

私から、「環境クリーンセンターの方向性パブリックコメント実施結果について」についてご説明いたします。

この度のパブリックコメントは、当審議会の委員の皆さまにご意見を頂き策定いたしました「環境クリーンセンターの今後の方向性（案）」について、広く市民からの意見を募集したものであります。

資料1をご覧ください。1の意見の募集結果であります。募集期間は、平成29年12月12日から平成30年1月12日までの30日間、意見の提出件数は1件でございます。

次に、2の意見の内容であります。『江別市の一部の大型商業施設のごみ箱には、「家庭ごみを捨てた場合は、警察に通報します。」といった張り紙が張られている、ごみ処理に関していえば、厳しい姿勢でのぞむ自治体です。ただ、家庭ごみの不法投棄はいっこうに減りません。そうした現状を踏まえ、江別市の大型商業施設やコンビニエンスストアで捨てられる家庭ごみも、環境クリーンセンターで処理できるように規制緩和を行ってゆく必要があると思います。市の住民から出たごみは、市で処理するといった寛容な市政が求められる時代だと思えます。』という意見がございました。

寄せられた意見に対する市の考え方ではありますが、ごみの処理につきましては、家庭から出るごみは家庭の責任で、事業活動から出るごみは事業者の責任で処理することになっており、ごみの処理費用は各自の負担となります。

そのため、大型商業施設などのごみ箱に家庭ごみが捨てられた場合は、事業者の負担で処理しなければならず、必要に応じて店舗側で啓発をしております。

市内で発生する一般廃棄物（家庭ごみ、事業ごみ）は、環境クリーンセンターで処理しておりますが、市といたしましては、ごみを排出する際には適切な方法で排出するように市民啓発を行い、引き続きごみ出しマナーの向上に努めて行くこととしております。

3の意見の反映状況につきましては、寄せられた意見は、直接「環境クリーンセンターの方向性（案）」に関する内容ではないことから、区分E「その他の意見」としております。

寄せられた意見の公開につきましては、個人を特定せずに市のホームページなどでの公開を予定しております。

以上のとおり、寄せられた意見は、環境クリーンセンターの方向性を考える上では「その他の意見」であることから、市としては、一般廃棄物処理施設の耐用年数とされる20年が経過する平成34年以降の施設の方向性については、現在の施設の延命化工事を行い施設の長寿命化を図り、平成34年から平成48年までの15年間延命化することとし、2月14日開催の生活福祉常任委員会の報告を経て今年度の3月中に決定する予定であります。

決定した内容につきましては、後日、送付させていただきます。

なお、今後においても、将来における施設の建替えに備え廃棄物処理の手法や焼却方式の技術革新などの調査を行い、将来の人口規模、資源化などの社会情勢に対応した効率的なごみ処理を研究してまいります。

説明は以上であります。

○押谷会長

ありがとうございました。今のご説明のとおり、1件のパブリックコメントが寄せられたということでもあります。

直接、今回のパブリックコメントの対象となっている「環境クリーンセンターの今後の方向性」ということではございませんので、その他の意見として対応したいということでもあります。

何か、委員の方々から、ご意見、ご質問はございますか。

○中井委員

パブリックコメントの求め方が、市民の方の関心が薄い内容でなかったかと考えています。

特に「方向性」というのが、非常に難しい話だと考えていて、実際に自治会の新年会等で「ぜひ、意見を出して」と言うと、「タイトルから難しいな」という受け止め方の人が多くて、結果として出した人はいませんでした。

そういう、パブリックコメントの「何も意見が無ければいいんだ」ということですが、同時にこの種のパブリックコメントについては、もう少し積極的に市民から意見が出てくるような、公開の仕方に工夫が必要ではないか、というように思っております。

それから、関連して言わせていただきますが、私もパブリックコメントを募集されてから、実際にクリーンセンターに自分で2度、ごみを持ち込んでみました。確かに、前に説明があったとおりに、非常に良好な管理をしております。そして、何年たっても、これだけきれいな状態で、運用しているというのも確認できる。前は、外から見させていただけましたけれども、今回は、ごみのピットの中も見ました。

町内会の人や、他の自治会の人の中にも、江別から移転しようとした人たちもいたんですが、「ぜひ、持ち込んだ方がいいですよ」と私は言うておりました、その人たちも初めて見て「きれいに管理していますね」という感想を持っておられました。

以上です。

○押谷会長

パブコメの意見の求め方、これは条例に基づいた形で実施されているわけですが、市民の方々にも、十分に分かりやすいということを今後も考えてということで、ご意見として賜っておきたいと思っております。事務局の方も、鋭意よろしく願いいたします。

2点目のクリーンセンターのお話ですが、「管理が行き届いていて、今のところは問題が無い」ということを、中井委員もご覧になったということです。皆さんから第4回までの審議会の中で、いろいろご意見をいただいたところですが、ぜひ、そういった管理についても、今後も続けていただきたいと思っております。

何か、他にございませんでしょうか。無いようでしたら、次の2点目に入りたいと思います。

②平成30年度清掃関係予算（案）の概要について

○廃棄物対策課庶務係長

廃棄物対策課の和田です。私からは、「平成30年度清掃関係予算案の概要について」ご説明いたします。

資料2をご覧ください。

平成30年度清掃関係予算案につきましては、昨日、記者発表が行われておりますが、今回3月に開催される定例市議会において上程予定の予算案をもとに作成している資料となっておりますので、ご了解の程よろしくお願いいたします。

ここでは、平成29年度の予算と比べて、人件費等の義務的経費により増減したものを除いた、主なものについてご説明いたします。

事業番号1、ごみ処理手数料等管理経費です。事業予算8,256万8千円で、359万4千円の増額となっております。指定ごみ袋等の販売枚数が増加傾向にあることから、製作費の増額のほか、ごみ処理手数料の減免（指定ごみ袋の無償交付制度）、対象者の拡大に伴う引換券の印刷費や、郵送料などの事務経費を計上しております。

事業番号4、環境事務所保守管理経費（臨時）です。事業予算57万4千円で、560万1千円の減額となっております。平成29年度は計量器の更新を行いました。平成30年度は工事等を予定しないものによるものです。

事業番号13、分別・資源化等啓発事業です。事業予算355万3千円で、361万9千円の減額となっております。平成30年度は、「分別の手引き」の発行がないことによるものです。

事業番号16、資源回収奨励事業です。事業予算3,282万4千円で、1,060万円の減額となっております。実施団体の奨励金申請事務の負担軽減を図るため、これまでの4月から翌年3月までの年度交付としていたものを、1月から12月までの暦年交付に変更することとし、制度変更年である平成30年度は4月から12月までの9か月分となることによるものです。

なお、平成31年度からは12か月分となります。

説明は以上であります。

○押谷会長

ありがとうございました。今、ご説明ありましたとおり、いくつかの件で増減があるということでございます。

増の方で大きかったのが、ごみ処理手数料の管理経費でございます。指定ごみ袋の制作予算が増えているということだと思います。

減の方としては、環境事務所の方で特段の事業がないということと、分別・資源化等啓発事業については、「分別の手引き」を印刷しないということで、減額になっているということです。

それから、資源回収奨励事業ですけれども、これまでは、4月から3月の年度予算で行っていたわけですが、10月から3月分については、年度をまたがった4月に奨励金が支払われるということで、自治会としてはいろいろな不都合があります。

そこで、来年度は暦年に変えるということで、3か月分の減額というか、3か月分の交付金の方がそれだけ減少になるということです。それは、奨励金を減らすということではないので、ご了解いただきたいと思います。

清掃関係予算というのは、市の財政の中で、比較的大きなウエイトを占めていますので、慎重に使っていただくことが大切になるかと思いますけれども、何かございますか。

○林倉委員

事業番号5のごみ収集運搬業務委託、私どもの業界が直接携わっているものでございます。一応、今年度より増額という事になっておりますので、そちらについては感謝しなければならないと思います。

ただ、実情を申し上げますと、昨今の人件費は、毎年3%、そういう勢いで上がっておりますし、燃料代等も上がっております。正直、人材の確保、ごみ処理収集体制を維持するのは、現場として、かなり厳しいと感じております。

そうは言っても、江別市の財政自体も、基本的にマイナス3%を目標にということで、新聞に出ておりましたし、市も大変だということが分かります。

やはり、市民のご理解をいただきながら、収集の体系を調整し、現場の人材を確保できるような、働きやすい制度設計が必要だと思います。

単純に私たちは、「こうした状況だから委託料を上げてくれ」と言うのは簡単ですけども、そうは簡単にいかないことも、重々承知しております。

これは、市民生活と直結する問題です。ぜひ、将来的にこの審議会でも、今のごみ委託の収集体系が、市民の方にとってもいいのか、行政にとってもいいのか、それを実際する業者にとっても効率的で、働く方々にもいいのか、議論に挙げていただきたいと、折角の機会ですから、申し上げたいと思います。

○押谷会長

ありがとうございます。近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」という言葉がございますけれども、業者に委託される部分も、委託の割合が非常に高い分野にあります。

民間企業では、昨今の人手不足の中で人件費が高騰している、それから、政権与党のほうが、3%賃金を上げるということをやっている中で、人件費の抑制というのは、非常に難しいところだと思っております。

そこについては、市民の協力、ご理解をいただくことが必要だと思いますので、今日の議事録に残していただいて、林倉さんの企業がどうすれば潤うという立場ではなくて、この審議会としても、ご理解いただきたいと思っております。

他にございますか。

○中井委員

質問ですが、クリーンセンターの延命化の設計調査費というのはどこに入っているのか、どの事業の中に入っているのか教えていただきたい。

それから、分別方法を変えないということになったし、印刷の方もしないということで、次の時点での議論にしたいと思っております。

3点目は、林倉委員の発言に反論するわけではありませんが、市民としては「ごみの減量化になれば、むしろ、その分は相殺されるべき」ではないかと思っております。

もし、ごみの処理に係る経費が増えるなら、量を少なくしようという努力は、どこに評価されるのかなというもので、市民の立場から見れば、そこが疑問になります。

以上です。

○押谷会長

3点いただきましたけど、確認をさせていただきます。

クリーンセンターに関しては、審議の中で色々な話をいただきましたし、パブリックコメントをいただきました。そして、先ほどご説明ありましたとおり、生活福祉常任委員会から報告を受けることとなっております。

建替えではなく、延命化措置を取られるということで、それに関係する検討予算、そういった

ものが今回どうなっているのかということだと思います。

それから、2点目については、「分別方法の変更はしない」という方向性になっております。基本計画の見直しの段階で、分別の見直しがあるかもしれませんが、その段階での議論だと思いますので、そこのところはご理解いただき、ご意見として賜ります。

3点目ですけれども、廃棄物減量化を進めているわけですが、実は若干ごみ量は増えていると聞いております。事業系の伸び率が高いのですが、家庭から出てくるごみも、増えてきているという状況です。

それから、経費の方ですが、私も大学生協の経営に少し携わっておりますが、人件費が高騰してしまって、食堂が一部休止状況になっています。ほかにも、いろいろなことが出ている中で、人件費の伸び率が非常に高くなっているという現状があると思います。

そのところで、減量の努力を上回る形で、管理経費の方が上がっているのかなと思いますけれども、ぜひ、ごみの減量化に市として積極的に取り組んでいただくということ、啓発事業を中心に考えていただければと思います。

例えば、先ほどのパブコメではありませんけれども、家庭から出てくるごみを、コンビニやスーパーに、あるいは不法投棄とかにつながってくる、これはお金がかかりますので、非常に慎重な対応が必要になると思います。

以上の2点ですけれども、何か事務局の方から、補足することがあれば、ご説明いただきたいと思います。

○施設管理課長

1点目の環境クリーンセンターの延命化に係る予算については、平成30年度予算に計上しておりません。

31年度から国の補助金に係る地域計画の策定ということで、コンサルに委託するような形になりますので、30年度は道との協議や、資料の作成にあたっての事前調査を行う予定となっております。

以上です。

○押谷会長

減量化の取り組みについては、改めてご確認させていただきます。

○廃棄物対策課長

事業番号13番の分別・資源化啓発事業ですが、主なものとして「分別の手引き」を隔年発行していますが、昨年、発行しましたので、その分が大幅に減額になっています。

ただ、啓発は今後も続けていくものであります。特に今、「ごみ出しアプリ」ということで、スマホなどで見られるシステム、これは無料アプリを活用しておりますが、そういった無料のアプリを活用して、さらにバージョンアップしたいという方向で、次年度考えております。経費が減額になったからといって、事業が停滞するということではないと考えております。

以上です。

○押谷会長

ということでございますけれども、中井委員よろしいでしょうか。

○中井委員

ごみの分別の予算ということでご説明あったのですが、私たちの周辺で、住替えで新しい人が入ってきております。札幌市はプラスチックと紙は、無料で収集しているわけですよね。自治会などで、自分もごみ置き場の運営の中心となっていてやっていると、札幌から移ってきた人はみんな、

「無料で回収してくれる」ということで、プラを分別したものをどんどん置いて行っています。我々の方は、プラは燃えるごみで、有料の袋だと。ここが、新たに入ってこられる方にとっては、なかなか理解しがたいようです。「どこから来たか」も何人かに聞いてみました。そしたら、他の地域でも、大概、プラは分別して無料とのことでした。

これは、手引きを発行しなくても、特に新しく入ってくる人に対して「江別市ではプラも紙も、燃えるごみ、有料袋ですよ」というのを徹底していただきたいというのが、実際に自治会でごみ処理の運営をやっていて、痛切に感じているところです。

○押谷会長

おそらく、転入手続きの段階で、分別の手引き等をお配りになられて、ご説明されていると思います。自治体によって分別区分は違いますので、当然、江別市に転入された方には、江別市の分別方法を徹底していただくことが、必要だと考えております。

事務局の方から、何かあれば補足していただきたいと思っておりますけれども、ございますか。

○廃棄物対策課長

江別市の人口の傾向としまして、社会増となっております。特に子育て世代の転入が増えておりまして、札幌周辺地域の転入者が多いのではないのと思われまます。

当然ながら、処理につきましては、札幌市と江別市では処理の仕方が違いますので、分別も若干違ってきます。転入された方には「分別の手引き」を配布させていただきまして、極力、本市の分別にあったものをお願いしているところであります。

また、自治会に新たな転入者が来まして、ごみの出し方、分別を説明してほしいということであれば、出前講座ということで、要望に応じて説明会を開催するなど、周知させていただいております。

いずれにしても、様々なことがあると思っておりますので、今後の啓発のあり方を工夫しながら、より皆さんにご理解いただけるような形で対応したいと考えております。

○押谷会長

ありがとうございました。そういうことで対応していただいておりますので、よろしいでしょうか。

○林倉委員

中井委員からお話がありました「ごみ収集料金が増額」ということで、ちょっと異議があるということですが、中井委員のおっしゃる意味もわかります。

ただ、今の収集体系においては、残念ながら、ステーション数が変わらない、距離が変わらない。仮に、何割もごみが減るということであれば、話は別ですけれども、そうじゃない場合は、収集時間や距離的なもの、収集箇所に変化が無いと、大きな削減要素が現状ではありません。ですから、先ほど申し上げましたとおり、今のごみ処理システム全体の見直しが必要になってくると思います。

例えば、中井委員は、プラスチックの分別のことをおっしゃいました。それは1つの方法だと思っておりますけれども、それをやった場合は、その分別をしながら収集することで、逆にコストは上がる面もあるかもしれません。

あと、今ですと曜日ごとの収集の忙しさは大分違います。やっぱり昔から「この曜日はこの地区」という、市民の皆さんの慣習があって、そこに手をつけるのは、なかなか抵抗があります。実際に、それを平準化することによって、収集が非常に効率的になるということもあります。ただ、市民感情としては、おそらくずっとやってきた慣習がずれるというのは、やっぱり抵抗があるということだと思っております。

あとは、今はステーション収集を行っていますが、戸別収集のご意見もあります。ただ、私たちの考えとしては、戸別収集は逆にすごくコストが上がるのではないかと考えていました。

しかし、ある地域で戸別収集を行いましたら、自分の家の前にごみを出さなきゃならないので、非常にしっかり分別をして、「無駄なものを出さない」ということになって、逆に2割以上ごみが減量されたという、私たちの常識を覆される面もあります。

そういう意味で、私はただ単に「業界としてこうだ」と言うつもりはなくて、ある程度システムのメスを入れないと、行政は財政が大変ですし、市民の方はある程度サービスを維持したいですし、現場も持続可能な形で働けないと、このシステムは維持できません。

市民の方のご理解もいただきながら、システムというのは変更していかなければなりません。ぜひ、この減量審のようなところで、将来的には議題に載せていただきたいという気持ちはございます。

○押谷会長

ありがとうございました。林倉委員のおっしゃるとおり、ステーション方式といますか、収集拠点方式をやめて戸別収集にしたら、ごみの量が減ったということが報道されて、私も驚いているところです。

そういうところで、分別方法、例えばプラごみや紙ごみですね。実は、札幌市も雑紙を分別収集しているわけですが、その収集処理コストが大きくなっているということを知っています。

ぜひ、将来に渡って、基本計画見直しの諮問を受けた段階でご検討いただくように、原課で準備をしていただきたいと思います。

○中井委員

確かに林倉委員のおっしゃるとおり、「システムから変えなければ」ということですが、ただ、市民感情としては、ごみを少なくする協力をしていて、1人当たりのごみ量が、ほんの少しだけ減っているなかで、「それに係る経費は減ってもいいのではないか」というのが、一般的な市民感情です。

林倉委員のおっしゃるとおり、システムを変えなければならないっていうのが、私もごみ処理については専門家ですので、理解できますけれども、市民感情として、やはりそうした予算が減っていくのが、当然でないかなというふうに思っています。

以上です。

○押谷会長

いわゆる原価計算ということも含めて、詳細に検討することが必要だと思いますので、ぜひ、市役所の方もご検討いただきたいと思います。

他に、ご意見よろしいでしょうか。よろしければ、本日の報告事項2点のご議論については、以上だと思います。

その他ということで、何か事務局の方からございましたら、お願いしたいと思いますが、その前に皆さんの方から、先ほどのパブコメを含めて、何か改めてご意見ご質問はいいですか。

○神保委員

江別市女性団体協議会の神保です。事業番号15番、生ごみ減量化推進事業の、生ごみ減量化の啓発として、私たち団体は段ボールコンポストの普及を市から委託されまして、活動しております。

それで、私は13年間、江別に来てからずっと続けておりまして、生ごみをごみに出したことは、一回もありません。でも、ここで予算を取っております、購入費助成っていうのがあります

よね。書類を出しましたら、コンポストを購入するときに千円の助成金がありまして、オーバーした分、自分が負担すればいいというものです。

ただ、段ボールコンポストに関しましては、組み立てる段ボールと温度計、もみ殻燻炭とピートモスをブレンドした、1つのセットがありまして、2～3ヶ月に一回使うのですけども、段ボールもスーパーで調達できますし、温度計も1つあれば要らないんですよ。

それで、中に使うもみ殻燻炭とピートモス、そのものを助成していただかなければ、私自身、非常に残念だと思うんです。恩恵にあずからないっていうのでしょうか。

もし、指定のところに行って、千円の助成を使うということをするれば、段ボールと温度計がついてきます。そして、使うべく、もみ殻燻炭とピートモスをブレンドしたものを、1袋に何百円か払うのですけども、余分なものはもったいないなというのがあります。

市の方に、一市民として「何とかありませんか」というのも方法ですけども、女性協の方でも続けている方は、思っている方もたくさんいて、どうにかならないか話しております。

この段ボールコンポストのことを知らない方は、全く知らないです。私たちも、もっともっと努力しなければならないのですが、本当に生ごみも何年も出さずに済みますので、ぜひ、小さなところから、助成金の恩恵を受けられるように検討していただきたいと思います。

以上です。

○押谷会長

何か、事務局の方でございませうか。これは、ごみの減量化につながることでございますので、検討していただくことも必要かなと思っておりますけれども。

○廃棄物対策課減量推進係長

平成30年度予算につきましては、要綱等によって、容器だけの助成ということをやっていたいておりますけれども、貴重なご意見ですので、次年度以降の助成の在り方について、検討させていただきたいと思っております。

○押谷会長

ぜひ、議事録に留めていただいて、できる限りの検討をしていただきたいと思っております。神保委員よろしゅうございませうか。

○神保委員

はい。ありがとうございます。

○押谷会長

他にございませうか。

それでは、本日議論させていただきましたけれども、議題は以上でございますので、事務局の方にお返ししたいと思います。どうもありがとうございました。

【閉会】

○廃棄物対策課長

本日はご多用な中、ご出席いただき、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第5回江別市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。